

1月22日 ルカによる福音書4章16～30節 今日の説教から

説教題：「福音の始まり」

皆様は、洗礼を受ける前に「洗礼準備会」のような形で聖書や礼拝についての勉強会を行ったことがあるでしょうか。私の場合は、洗礼準備会を「ハイデルベルク信仰問答」という問答集を用いて行いました。ハイデルベルク信仰問答は、1563年にドイツの町ハイデルベルクで出版されたカルヴァン派の信仰問答集です。今回はその冒頭の二つを裏面、聖書箇所の下に記しているのので、よかったですらご覧ください。

私たちはこのような学びを深めながら信仰へとあゆみ、洗礼に導かれたことと思いますが、それだけではなく、「福音との出会い」「イエス様との出会い」も必要不可欠であります。今日の聖書箇所では、イエス様が福音宣教を始めて、人々がイエス様に会い始める、その始まりの出来事が記されています。特に、今日はイエス様が朗読した聖書の部分、イザヤ書では61章1～3節の部分に注目したいと思います。こちらは裏面中段に記してあります。どうぞ見比べながら読み進めてください。

このイザヤ書で預言されているのはイエス様の事なのですが、興味深いことに、イエス様は61章の言葉を途中で読み終えて、何事もなかったかのように聖書を閉じてしまいました。その理由として示されているのが、イザヤ書の朗読のあとに続けて語られた「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」という言葉です。これは、何事もなく律法を守っていた人々以外の、律法によって罪に定められ、疎外され、神様から遠ざけられていた人々に対して、大きな恵みの福音となりました。

ハイデルベルク信仰問答でも、その始まりが「私たちの慰め」「私たちの罪深さと悲惨さ」「どうすれば救われるのか」という、人間の持つ罪の側面から始まっているように、聖書の言葉は、私たち人間がどれほど罪深い存在なのか、どれほど神様から遠い存在なのかを突き付けてきます。それはアダムから始まる原罪として、神様よりも自分の欲望を優先するという形で示されることもあれば、罪のないイエス様を十字架に追いやった、神様に対しての限りない「無知」という形で人間の罪を突き付けてきます。

しかしそれだけではなく、イエス様は罪深い私たちに、救いの言葉を届けてくれる方でもあります。会堂に集まった人々には届きませんでした。イエス様の宣教の歩みの中で、癒しの奇跡によって、その御言葉によって、そして何よりも「イエス様の招き」によって、多くの人々がイエス様の弟子となり、イエス様のことを信じるようになりました。誰からも遠ざけられていた人々が、誰よりも神様から遠いと考えられていた人々が、イエス様に招かれて、誰よりも神様に近い者として歩むことがゆるされたのです。そしてその救いは、十字架によって完全なる成就の時を迎えます。その十字架に向けた歩みがすでに始まっていることが、今日の箇所では示されているのです。

私たちが最初に福音に触れた時、最初にイエス様を知った時、そしてイエス様のことを信じると決断した時、その最大のきっかけは何だったのでしょか。私の場合は、「自分の人生の中で、いつも招かれていた」と自覚をしたことが最大のきっかけだったと思います。神様がただ唯一の神様であるという事実は、私たちがどのような信仰を持っていても、どれほど悪に染まってしまうにしても、「その人の神様」は変わることなく私たちの神さまであるということの意味しています。私たちが生まれたその時から、生まれる前からも、私たちに愛を注いで、信仰へと招き続けてくれているのだということを知ったその時に、聖書の書かれているすべての言葉が「自分に向けて書かれている」と気付いたその時に、私たちは信仰への道が確かに開かれるのです。そのことを伝える使命が、福音を届ける使命が私たちには課せられています。その、神様からの期待に強められて、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書4章16～30節

- 16:イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエスは言われた。「きっと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」
- 24:そして、言われた。「はっきり言うておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。確かに言うておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、エリヤはその中のだれのもとにも遣わされず、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

イザヤ書 61章1～3節

- 1: 主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。主が恵みをお与えになる年／わたしたちの神が報復される日を告知して／嘆いている人々を慰め シオンのゆえに嘆いている人々に／灰に代えて冠をかぶらせ／嘆きに代えて喜びの香油を／暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために。彼らは主が輝きを現すために植えられた／正義の櫟の木と呼ばれる。

ハイデルベルク信仰問答

問1 生きるにも死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか。

答1 わたしがわたし自身のものでなく、身も魂も、生きるにも死ぬにも、わたしの真実な救い主イエス・キリストのものであることです。この方は御自分の尊い血をもって、わたしのすべての罪を完全に償い、悪魔のあらゆる力からわたしを解き放ってくださいました。また、天にいますわたしの父の御旨でなければ、髪の毛一本も頭から落ちることができないほどに、わたしを守ってくださいます。実に万事がわたしの益となるように働くのです。そうしてまた、御自身の聖霊によってわたしに永遠の命を保証し、今から後この方のために生きることを心から喜ぶように、またそれにふさわしいように整えてもくださるのです。

問2 この慰めの中で喜びに満ちて生き、また死ぬために、あなたはどれだけのことを知る必要がありますか。

答2 三つのことです。

第一に、わたしの罪と悲惨がどれほど大きいか、

第二に、わたしのあらゆる罪と悲惨からどうすれば救われるのか、

第三に、そのような救いに対して、わたしはどのように神に感謝すべきか、ということです。